

<メディアウオッチ>

若宮主筆原稿「劣化極まる政治」に見る朝日の「劣化」

上出 義樹

朝日新聞は何かおかしいぞ。そんな思いが募るなか、若宮啓文主筆が書いた8月22日付3面「座標軸」を読んで何度も目をこすった。「二院制と選挙制度」のタイトルに「劣化極まる政治 抜本改革を」の見出し。101行（1行14字）の長文だが、何を言いたいのか論旨がさっぱりわからない。「先刻ご承知」の話を並べているだけで新たな知見も傾聴すべき主張も、見事なほどないのだ。

もし私がデスクだったら、失礼ながらボツしているだろう。近年何度も首相が変わり、今は『大連立』が焦点の一つになっていることや、衆参のねじれで「国会での合意形成が難しい」ことなど、周知の事実を書き綴り、『第2の政治改革』で二院制のあり方と選挙制度を見直す時ではないか」と提言？しているが、饒舌なだけで心に響く内容はゼロ。「劣化」は、こんな原稿をノーチェックで掲載する朝日のことではと、思ってしまう。

先日の北海道電力泊^{とまり}原発3号機の営業運転再開問題での社説もそうだが、とくに最近の朝日は批判すべきことをきちんと批判していない。そんな朝日に対し、「菅政権（民主党）の使い走り」との揶揄まで聞かれる。「新聞の中の新聞」を自任する朝日さん、一体どうなっているの。

（かみで・よしき） 北海道新聞で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院（新聞学専攻）在学中。